

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年10月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300019
法人名	有限会社 オクムラハーネス
事業所名	グループホーム 泉の里
所在地	鹿児島県鹿屋市上高隈町1579-1番地 (電話) 0994-45-2388
自己評価作成日	令和3年10月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番A棟3F30
訪問調査日	令和3年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当「グループホーム泉の里」は鹿児島県鹿屋市大隅半島の北西部に位置する高隈山系に囲まれた自然豊かな場所にあり、直ぐ近くには、ボート競技で知られる「大隅湖」もあります。また四季折々の季節を実感できる風光明媚な所です。「明るく豊かな心と心のふれあい」をホーム理念に掲げ、地域の方々とのふれあい、本人様はもとより、ご家族様が安心して暮らせるようになるべく残存機能の維持・向上を図りながら、ご本人第一のケアの提供を目指しております。しかしこの2年間近くは 新型コロナウイルスの感染拡大により、外出の自粛、ご家族との面会自粛のお願いなど入居者様にとりましても大変な日常生活を強いられております。なるべく気分転換が図れて、生きがいのある生活が送れるように朝夕の近隣の散歩、ホーム内での過ごし方の工夫に努めております。特に多くの方が現在は「塗り絵」に取り組み、色鉛筆の使い方の工夫に目を見張るものがあります。また、以前のように面会が難しくなっていますので動画を送ったり、ホーム便りで近況をお伝えしています。健康、医療面では「訪問診療」を利用される方が多くなられており主治医との連携が図れ、訪問看護ステーションとの協力も得られるなどご家族の安心につながっているようです。食事面では自家米を美味しく頂いたり、地元産の食材で季節の献立を工夫しています。これからもより健康管理しつつも「明るく、心地よい風」が吹いてくる事を願って日々生活支援をさせていただきます。

「明るく豊かな心と心のふれあいを大切に一緒に暮らしましょう」という理念をリビングの目に付く場所に掲示し意識付けを図ると共に、理念が現状に即しているかを振り返る機会も設けている。これまでに理念の見直しについても検討したことがあったが「明るく豊かな心と心のふれあい」の文言をこれからも意識し大切にしていきたいと考え見直しは行わず、毎日の生活の支援を理念に即したものとよう日々、理念の共有と実践に取り組んでいる。

「身体拘束等適正化対策検討委員会」を毎月の職員会議に合わせて3か月毎に開催し、言葉による拘束を含む身体拘束のないケアについて話し合っている。事業所が県道沿いに立地していることや、すぐ近くが斜面になっており河川があるため、職員は日常的に見守りを徹底しており、利用者が外出しそうな様子を察知した時は職員間で声を掛け合い連携して安全確保に努めている。

コロナ禍のため一緒に買い物に行くことはできないが、つわや筍の皮むき、テーブル拭きや下膳等、利用者もできることに参加しながら楽しく食事をしている。季節毎の旬の野菜や食材を使い調理してほしいという経営者の思いがあり、米も法人で作る自家製米を使用している。コロナ禍のため外出に出かける機会はなくなったが、誕生会メニューやクリスマスメニュー等の行事食の提供や毎日のおやつも手作りにこだわるなど、食べる楽しみを大切に日々支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	目につきやすい場所に、「ホーム理念」を掲げ、職員で共有して実践につなげている。	理念を掲示して意識付を図ると共に、理念が現状に即しているかを話し合い、振り返る機会を設けている。「明るく豊かな心と心のふれあい」の文言を大切に日々支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域交流が図れるように努めているが、現在はコロナ渦により、交流の機会はほとんどない状況である。回覧板や広報誌での共有はできている。	自治会に加入し地域の情報を回覧板により収集している。現在コロナ禍のため地域行事や学校行事等に参加できていないが、近所の方から野菜の差し入れをもらうなど近隣とは良好な関係を継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	「オレンジの窓」という看板を掲げ地域の人々が立ち寄る場所作りをしているが、やはりコロナ渦により相談窓口は機能していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦により、この1年の「運営推進会議」書面開催としている。推進委員には定期的に電話で意見交換をお願いしている。意見が出にくい状況なので、もう少し情報を発信していきたい。	コロナ禍のため書面での会議としていたが、先日1年半ぶりに事業所にて実施することができた。会議には家族や自治会長、民生委員、行政職員や消防団員等の参加があり、事業所の活動内容の報告や災害設備についてなど意見や提案が出された。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に市町村担当者とは連絡を密に取り合っている。管理者で市の方に出向いたりしている。	行政職員とは運営推進会議や介護認定手続きの時等で顔を合わせるほか、入居者状況報告書の提出により、事業所の空床状況の発信やリモート研修の開催等、行政とは日頃から密に連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	随時職員会議の中で「身体拘束をしないケア」について学習する機会がある。 1名の入居者は無断離設のリスクがかなり高いため、その時の状況に応じて（ご家族の同意）施錠している。入居前6日間の無断外出の履歴あり	「身体拘束等適正化のための指針」を作り「身体拘束等適正化対策検討委員会」を毎月の職員会議に合わせて3か月毎に開催している。言葉による拘束については、相手の立場に立って接することの大切さや方言についても愛情を込め、その場の状況に応じて使い分けるなど抑圧感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃より、虐待防止について職員間で認識し、情報の共有に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方については状況に応じて、制度が利用できるように努めている。最近も成年後見制度の活用に向けて動いていたが、残念ながら亡くなられた事例があった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や改正時は説明をしっかりと行い、理解・納得が得られるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>最近ではコロナ渦により面談はかなり困難な状況である。意見の聞き取りの方法を再度検討してみたい。今回のアンケートによりいい意見が聞かれることを希望します。</p>	<p>利用者からは日常会話や様子等から、家族からは面会時等に意見や要望を把握している。また、家族宛てに毎月お便りを送付する際に3か月に1回は写真以外に「個別便り」を作成して日常の様子をより詳しく報告しており、これらについての意見や感想、要望等をもらう機会にもつながっている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ここ最近非常勤職員の比率が高く、話し合いの機会が多いが前向きな意見があまり聞かれていない。</p>	<p>朝夕の申し送り時や毎月の職員会議のほか、休憩時間やカンファレンスなど随時、職員が意見を伝える機会はある。勤務表作成時には休みの希望を自由に聞き、可能な限り叶えられるよう、他の職員とも調整しながら勤務表を作成している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>以前に比べて就業環境はかなり整備されていると思う</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の機会はかなり少なくなり、実施されてもリモート研修となり人数や実施時間の関係もあり機会は少ない</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流の機会も現在は休止の状態です。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族との面会や担当ケアマネ、以前の利用サービス事業者からの情報を収集し、本人との信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での様子や、これまでの生活史について話しを聞き生活パターンができるだけ継続できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりアセスメントを実施しGHでの生活がご本人にとり最適であるかを検証している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まず本人の不安を取り除く支援を行い、次に信頼関係が築けるように本人が必要とする援助法を見出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	常に家族への報告を大切にしている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	コロナ渦においても窓越しやアクリル板を通して。最近では面会希望者はほとんどいない	これまでの馴染みの関係を入居前のケアマネージャーや病院の相談員から情報を収集し、入居後も関係が途切れないよう家族とお墓参りや美容室に出かけることを続けている。状況をみながら家に帰りたいという希望にも応えたいと考えている。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	洗濯物干し、畳み、下膳等利用者同士が関わる場面が多い。心の安定につながっている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	入院や他施設に移動されても相談や連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望や意向を見出せるように常に観察に努めている。	レクリエーション参加時の表情や様子、またテレビを見ている時の様子等から好みや楽しみ事を把握している。把握した内容はケア記録に記入し、申し送り時や随時職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	まず、本人の生活ペースを大切にしながら現状把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者との話し合い、本人の希望を取り入れた介護計画を立案している。	本人や家族の思いや意向を基に申し送り時の情報やカンファレンス、定期アセスメントやモニタリングを参考にケアプランを作成している。定められた期間以外にも入退院等による身体状態の変化や意向の変化を確認した場合等には随時ケアプランを見直し、必要に応じて作り直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の個別記録を参考にして計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、病院受診や入退去時の送迎、遠方から来られた家族の送迎など必要に応じてサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	台風や豪雨などの避難の時に消防分団、町内会長、民生委員、町内会の方々に協力していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は定期的にてできており、必要時は家族へ報告している。	入居前のかかりつけ医を把握し入居後も本人や家族の希望する病院を受診できるよう支援している。協力医療機関の医師による訪問診療や訪問看護により、本人や家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師との連携は図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関との連携は図れている。最近は訪問診療の利用者が増えており、必要時は訪問看護師によりホームで治療することが多い。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や終末期支援についてはホームの指針について説明し家族の意向を確認している。	看取り介護の支援内容を含む「重度化した場合における対応にかかる指針」を作成し、入居時に説明している。入居後、高齢化や重度化等、状態に変化が見られた場合に再度、指針を説明し同意書を取り交わしている。これまでに看取りの事例はあり、訪問看護師による看取り研修会にも参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	折に触れて急変時の対応について確認、理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>ホームで災害対策マニュアルを作成し市町村に提出。 地域の消防分団との連携確立 年2回の火災避難訓練実施</p>	<p>年2回消防署立ち合いの下での災害訓練を実施するほか、3か月に1回程度、職員会議の中で避難経路の確認を行っている。備蓄は水や米、レトルト食材を約2日分程度準備し、カセットコンロや携帯ラジオ、ヘルメット等の備品も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉遣いを徹底している。年長者として尊厳を損なわない対応に心がけている。	人格の尊重やプライバシーへの配慮については、朝夕の申し送り時や毎月のケア会議で話し合い意識付している。職員が利用者の居室に入る際は必ずノックし声を掛け許可をもらうほか、タンスを開ける時も同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる方は少ないが、導き出すことができるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合が優先していると思うので、その人らしい暮らしが「もっとできるように努力する必要がある。」		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	もう少し支援が必要と思う。希望者には化粧品等の購入支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事等の準備は難しいが、エプロン掛けや、下膳等の関りはできている。	毎日の食事は冷蔵庫内にある食材を用い、自家製米、旬の野菜にこだわり調理しており、利用者のリクエストにも当日中に対応することができている。また、手作りおやつや季節の行事食にも工夫を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの方が必要な栄養が採れたり、水分が摂れるように各自の記録をしている。ミキサー、トロミ食等形態もその方に応じて工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後徹底して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれに応じて援助できている。	高齢化により、おむつ等、排泄補助具に頼る傾向にあるが、可能な限りトイレでの排泄を支援することでおむつに頼らない工夫をしている。職員によって介助方法にばらつきが出ないようにケアプランに組み込み支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況は記録・確認し飲食物の工夫や、運動、水分摂取に努めて便秘防止を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その方の心身の状況に合わせて入浴を行っている。	隔日の入浴を基本に考えているが保清面での必要性や希望に合わせて入浴は可能であり、実際毎日入浴する利用者もいる。重度化してもなるべく入浴できるように特殊なシャワーチェアを使用し入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は本人の希望を大切にしている。必要な方には午睡も勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬剤の確認と副作用について確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に向けた」支援法がマンネリ化している。創意工夫に努めたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	この1年半あまりコロナ渦により外出できていない。せめてドライブ支援を行いたいと反省している。	以前は地域行事やバラ園、イルカショー見物や外食等に出かけていた。コロナ禍の現在、外出の機会が減ってしまったが、最近少しコロナが落ち着いてきたこともあり、コスモス見物や紅葉狩りに出かけることができた。12月にはクリスマスのイルミネーションを見に出かける予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持支援は行っていない。買い物等希望者は家族同伴での外出をお願いしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>時に家族からの電話を取り次いでいるが、皆さん難聴気味で会話が難しい。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間には季節感のある掲示物を飾るなどして、心身の安定につなげている。室温管理、換気塔もしっかり行うように努めている。</p> <p>それぞれの方の塗り絵等の掲示で笑みがこぼれたり、上達に向けた言葉が聞かれている。</p>	<p>リビングの天井は高く十分な採光と季節の作品の掲示により明るい雰囲気を感じられる。加湿器の設置や換気にも気を配り、空調も利用者に合わせ良好な室温が保たれている。浴室、浴槽は広く、リクライニングシャワーチェアもあるため介護度の高い利用者でも入浴は可能である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室のソファで数人お方が集まり談笑される光景は常に目にしている。お茶をされることもある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>プライバシー保護に努めながらご本人の意向を大切にした居室作りに努めている。</p>	<p>クローゼットとエアコン、電動ベッドが備え付けられるほか、自宅からテレビや仏壇、位牌等を持ち込み自由に過ごしてもらっている。掃除や消毒は職員が行うが、モップ掛けを自ら行う利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>転倒、転落の事故防止しながら安全な環境整備を行っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない